

## ぎふの水稲生産を支える研究開発 (作物部)

縞葉枯病抵抗性系統「ハツシモ岐阜SL」の現地導入に向けた栽培研究が始まってから3年が経過し、本格導入の平成22年春が目前に迫ってきました。おかげさまで「新ハツシモ」という愛称もすっかり定着し、生産者の方々の期待も膨らんでいます。

今回は、品種育成や栽培技術とは違った「新ハツシモ」の別の一面をご紹介します。

### 1 「新ハツシモ」に興味津々 - 普及に向けたPR活動 -

平成22年度からの本格導入を前に、直接生産者の方々と話をする機会が増えてきました。

出穂期から収穫期にかけ、生産組合など多くの方が試験ほ場の視察に訪れました。栽培概要や品種特性を念入りに質問され「作りこなしてみせます」「来年は情報交換をしましょう」などと感想を述べられ、ハツシモ栽培へのこだわりと意気込みを感じることができました。



「新ハツシモ」を勉強に来場



農業フェスティバルでのPR

10月24～25日に開催された『第23回岐阜県農業フェスティバル』では、パネルや稲株の展示を行いました。

「種子は買えるのか」「縞葉枯病に苦労しとるで作りたい」など多くの意見をいただき、関心の高さを伺うことができました。

生産者のみな様には、それぞれの地域で水稲を栽培してきた知識と経験を十分に活かして、消費者の方々に愛される「新ハツシモ」を栽培していただきたいと思ひます。

### 2 「新ハツシモ」も準備万端 - 種子(原原種)の生産 -

「新ハツシモ」を栽培するには種子が必要です。そのため、県内の採種専用ほ場で種子生産が始まっています。

当センターもその一端を担っており、採種ほ場で使用する種子(原原種)を生産し供給しています。

原原種は、種子の一番元となるもので、その生産は、品種の特性を把握している研究機関だからこそできる重要な仕事です。場内のほ場では、他の品種との交雑を避けるよう注意し、出穂期や形質等の特性が異なっていないか何度も確認、疑わしいものは除去するなど、よりより種子を提供できるよう心がけています。



系統を確認し収穫する作業風景

## 農業技術センター成果検討会のお知らせ

日時：平成22年2月25日(木) 13時00分～16時30分

場所：農業技術センター講堂 農業技術に関する最新の研究成果の発表と検討

お申し込み、お問い合わせは、農業技術センター(058-239-3131)まで。

## フランネルフラワー鉢物品種「エンジェルスター」を開発 (花き部)

フランネルフラワーの鉢物品種「フェアリーホワイト」、切り花品種「ファンシースノー」に続き、鉢物品種「エンジェルスター」を開発しました。

エンジェルスターは、小輪で葉に細かい切れ込みが入り、花姿も崩れにくく、栽培も容易です。また、極早生で、開花期の揃いが良いのも大きな特徴です。さらに、完全四季咲きのため、これまでできなかった12月出荷が可能となったことから、クリスマスギフト商品としての販売を目指しています(現在、品種登録出願中)。



## 吸わせて効かせるカキ害虫の新しい防除法 (環境部)

カキの害虫「フジコナカイガラムシ」の新しい防除法を開発しました。農閑期の3月に樹幹部の粗皮を削り、その部分に薬液を刷毛で塗布します。春の芽吹きとともに浸透した薬剤成分が新芽に移行し、新芽の汁を吸ったフジコナカイガラムシに殺虫効果が現れます。従来の防除法と比べ農薬飛散がなく、省力で安定した効果が期待されます。

毎年被害に悩まされる生産者も多く、各地で開催される講習会では高い関心が寄せられています。平成22年2月25日に開催する成果検討会でも本技術に関する報告を行う予定です。



現地講習会の様子

## 甘長ピーマンの省資源栽培技術 (野菜果樹部)



当センターでは本年度から、農林水産省委託プロジェクト研究「地域内資源を循環利用する省資源型農業確立のための研究開発」に参画し、県西南部の地域特産野菜である甘長ピーマンを取り上げ、その省資源型栽培技術の確立に向けた取り組みを開始しました。

その中で、鶏糞を主体にした肥培管理、防虫ネットや天敵を用いた害虫防除、弱毒ウイルス等を用いた病害防除等の技術確立を行っています。これらを通じて甘長ピーマン栽培における省資源化を進めることで産地の活性化につながることを期待されます。

## 新しい窒素肥効評価法による堆肥リストを作成 (環境部)

昨年まで実施してきた農林水産省実用技術開発事業において、家畜ふん堆肥の窒素肥効(発現量や発現時期など)評価法を開発しました。そこで、県畜産課と連携し、この評価法による県内堆肥の肥料成分を掲載したリストを作成することにしました。

リストはネットで公開し、耕種農家で利用する堆肥の選択や、畜産農家が製造する堆肥のPRに活用いただけるようにします。また、リストへの掲載希望の畜産農家さんを募集しております。

評価法の内容は「堆肥カルテシステム」にて公開中



<http://taihi.dc.affrc.go.jp/carte/>